

# 日本人間ドック学会 2016年度会員施設 実態調査報告

人間ドック健診実態調査委員会

委員長：新 智文

委員：鏑木淳一、笹森 斉、高谷典秀、松木隆央

担当理事：篠原幸人（理事長）

日本人間ドック学会では、2015年まで機能評価認定施設等を対象に各種調査を行ってきました。しかし、個人会員（A・B会員）だけでなく多くの施設に会員（C会員）となっていたいただいており、その数は年々増加しています。

そこで2016年からは、機能評価認定施設等だけではなくすべての会員施設を対象に調査をさせていただきます。

2008年に始まった特定健診・特定保健指導は第3期を迎え、また新たな検査機器の登場や高額な新規薬剤の開発など医療を取り巻く環境は、常に変化しています。

このような中、人間ドック健診に関わる学術団体として、会員の皆様とともに様々な情報を共有することで、課題を明確にし対応策を考えていきたいと考え、会員施設の実態などを中心に調査結果の一部をまとめましたので報告いたします。

# 2016年度 実態調査 集計結果報告

調査依頼会員施設：1,677（2017年10月時点）

有効回答率 61.5%（992施設）

認定施設	310施設
非認定施設	682施設

日本人間ドック学会の会員数（2019/5/17現在）

7,996会員（A会員：5,838、B会員：413、C会員1,713、S会員：32）

なお、一部回答が不完全なものがあり、分析項目により対象施設数が異なります。

# 人間ドック健診等 年間受診者数 (2016年度)

人間ドック健診等 年間受診者数 (2016/4/1～2017/3/31)		受診者数【全体】		
		男性	女性	総計
一日ドック ※1	総数	2,145,438	1,552,280	3,697,718
	健保組合員数(総数より再掲)	1,424,634	988,122	2,412,756
	特定健診同時実施者(総数内の対象数) ※3	1,542,470	1,098,644	2,641,114
二日ドック ※2	総数	106,835	43,630	150,465
	健保組合員数(総数より再掲)	64,821	25,209	90,030
	特定健診同時実施者(総数内の対象数) ※3	77,885	29,007	106,892
<b>合 計</b>		<b>2,252,273</b>	<b>1,595,910</b>	<b>3,848,183</b>
生活習慣病健診 ※4	自施設内	1,569,574	1,025,045	2,594,619
	巡回	797,472	396,758	1,194,230
単独事業主健診	自施設内	2,145,659	1,834,495	3,980,154
	巡回	3,811,354	2,172,714	5,984,068
単独特定健診	自施設内	273,429	591,860	865,289
	巡回	408,099	498,245	906,344
単独対策型がん検診	肺がん	733,268	859,224	1,592,492
	胃がん	495,950	525,115	1,021,065
	大腸がん	594,924	714,783	1,309,707
	子宮頸がん		770,814	770,814
	乳がん		899,479	899,479

※1 一日ドック: 日本人間ドック学会が定める基本検査項目を満たす一日(日帰り)ドックの人間ドック健診受診者数。

※2 二日ドック: 二日(宿泊)ドックの人間ドック受診者数(3～7日の入院ドックも含む)。

※3 特定健診同時実施者: 総数のうち、人間ドック健診を実施した40～74歳までの被保険者および被扶養者。

※4 生活習慣病健診: 協会けんぽの生活習慣病健診とする。

# 人間ドック健診等について

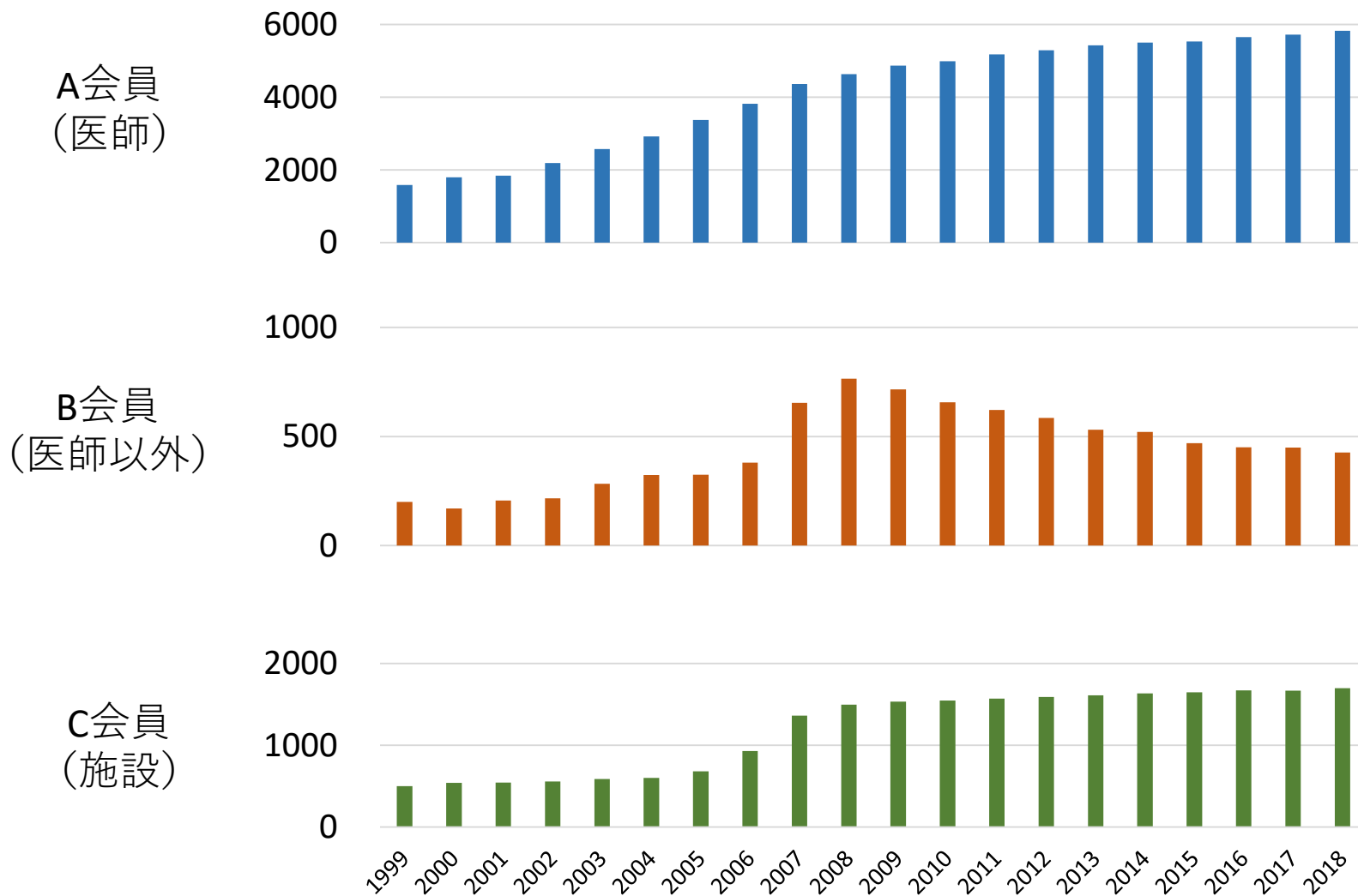
人間ドック健診の形式(複数回答可)	全体		機能評価認定施設	
	回答数	%	回答数	%
一日ドック	937	94.5	306	99.4
二日ドック(三日以上含む)	463	46.7	178	57.8
有回答数	944	95.2	306	99.4
無回答	48	4.8	2	0.6
<b>合 計</b>	<b>992</b>	<b>100.0</b>	<b>308</b>	<b>100.0</b>

併設施設	全体		機能評価認定施設	
	回答数	%	回答数	%
1) 併設施設なし(単独)	198	20.0	63	20.5
2) 病院併設	587	59.2	179	58.1
3) 診療所/クリニック併設	191	19.3	64	20.8
無回答	16	1.6	2	0.6
<b>合 計</b>	<b>992</b>	<b>100.0</b>	<b>308</b>	<b>100.0</b>

貴施設では人間ドック健診を行っていますか(複数回答可)	全体		機能評価認定施設	
	回答数	%	回答数	%
① 人間ドック学会が定める基本検査項目表(別紙2※)に準じた人間ドック健診を行っている	866	87.3	305	99.0
② 結果説明および事後指導を行わない人間ドックの実施をしている	166	16.7	34	11.0
③ ①②以外の健診(特定健診、協会けんぽ健診や企業健診)の実施	629	63.4	189	61.4
④ 人間ドック健診・健診業務のどちらも行っていない	4	0.4	0	—
有回答	988	99.6	307	99.7
無回答	4	0.4	1	0.3
<b>合 計</b>	<b>992</b>	<b>100.0</b>	<b>308</b>	<b>100.0</b>

貴施設ではどのような判定区分を用いていますか	全体		機能評価認定施設	
	回答数	%	回答数	%
人間ドック学会判定区分(別紙1※)に概ね準拠(A区分は自施設など)	766	77.2	276	89.6
人間ドック学会判定区分を一部準拠	148	14.9	28	9.1
独自の判定区分	50	5.0	2	0.6
他団体の判定区分	17	1.7	1	0.3
無回答	11	1.1	1	0.3
<b>合 計</b>	<b>992</b>	<b>100.0</b>	<b>308</b>	<b>100.0</b>

# 日本人間ドック学会 会員数の推移



日本人間ドック学会は、医師の個人会員（A会員）、医師以外の個人会員（B会員）ならびに施設会員（C会員）、賛助会員から構成されています。医師の個人会員の数は年々増加しています。施設会員数は2007年ころに急増し、その後も徐々に増加傾向にあります。その反面、医師以外の個人会員数は2008年をピークに減少傾向がみられています。

# 都道府県別会員施設数

2019年5月現在

福岡	74
佐賀	7
長崎	13
熊本	25
大分	12
宮崎	9
鹿児島	27
沖縄	23

鳥取	8
島根	11
岡山	37
広島	39
山口	22
徳島	9
香川	16
愛媛	19
高知	8

滋賀	17
京都	47
大阪	149
兵庫	67
奈良	20
和歌山	8

新潟	30
富山	16
石川	19
福井	11
山梨	17
長野	42

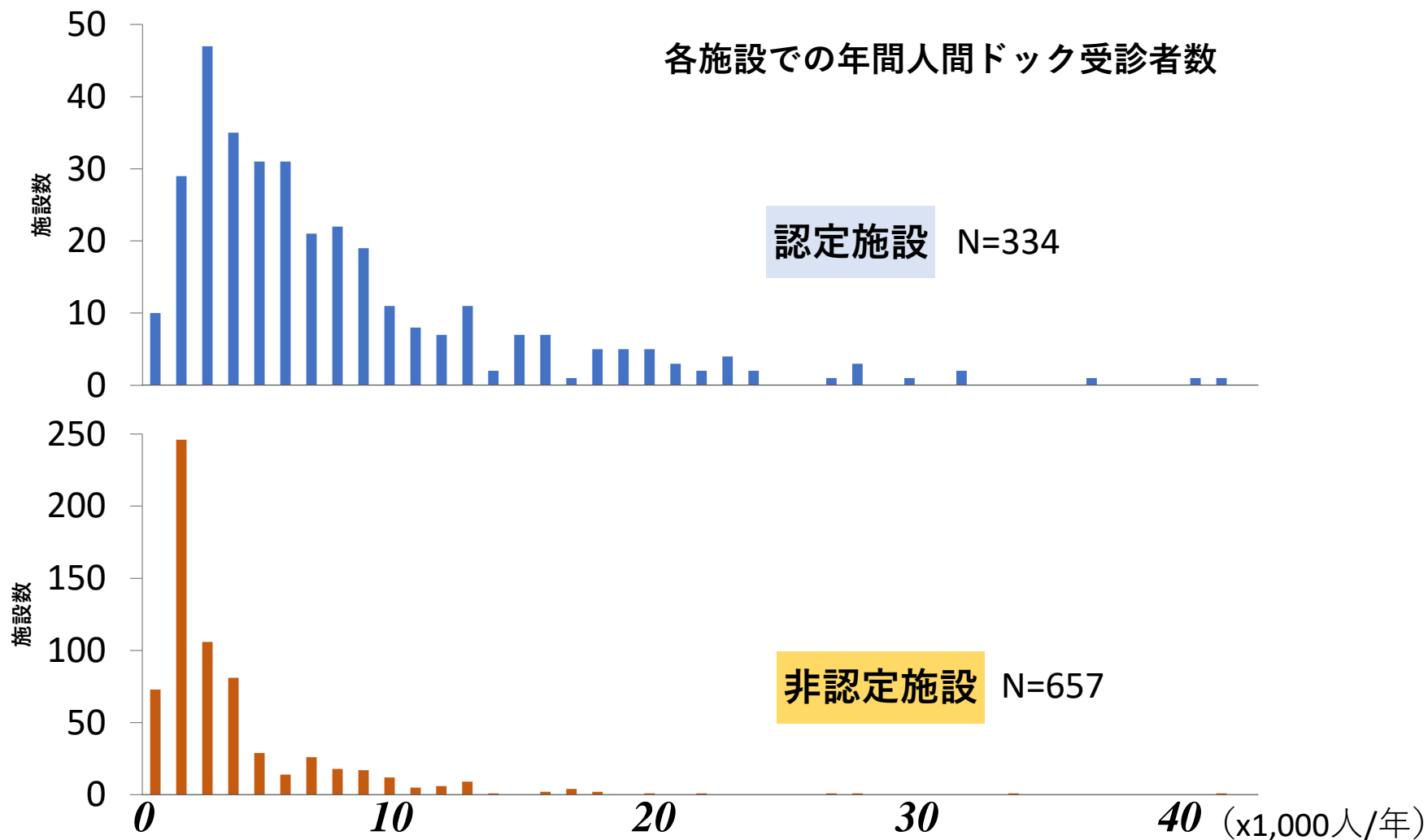
岐阜	24
静岡	54
愛知	89
三重	22

茨城	37
栃木	27
群馬	36
埼玉	71
千葉	88
東京	241
神奈川	100

北海道	53
青森	12
岩手	13
宮城	26
秋田	13
山形	10
福島	25

施設会員は全国の都道府県に広く分布しています。

# 各施設での年間人間ドック受診者数の分布

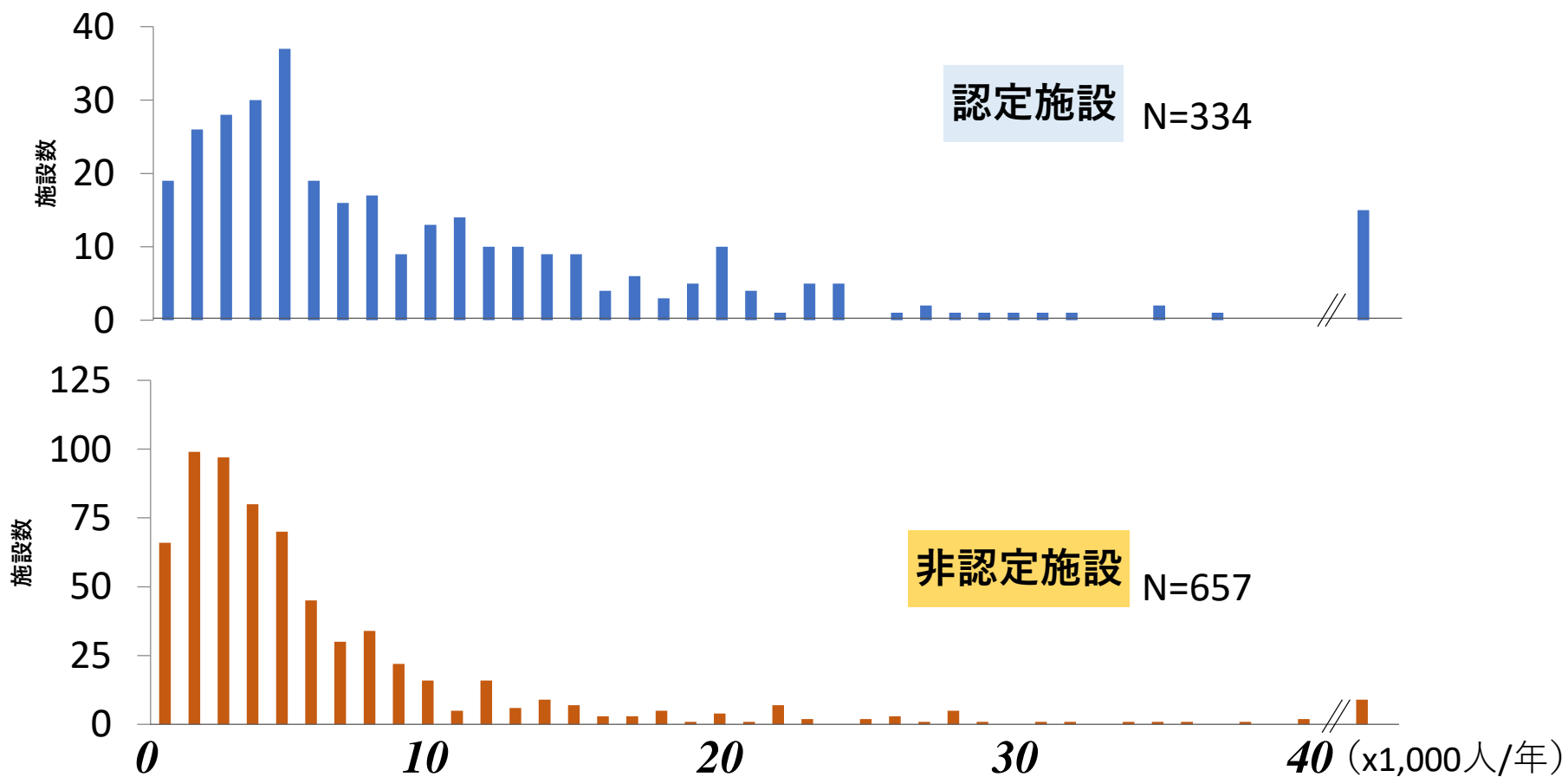


当学会の健診施設機能評価の認定を取得されている施設（以下認定施設）とまだ取得されていない施設（以下非認定施設）別の年間人間ドック受診者数の分布を示しています。

認定施設の要件に年間500人以上の人間ドック受診者がいることが挙げられており、一部データの正確性を欠くところもありますが、全体をみると認定施設の方が非認定施設に比べ人間ドック受診者数が多い傾向があります。

# 各施設での人間ドック以外の受診者数の分布 (生活習慣病検診 + 単独事業主健診 + 単独特定健診)

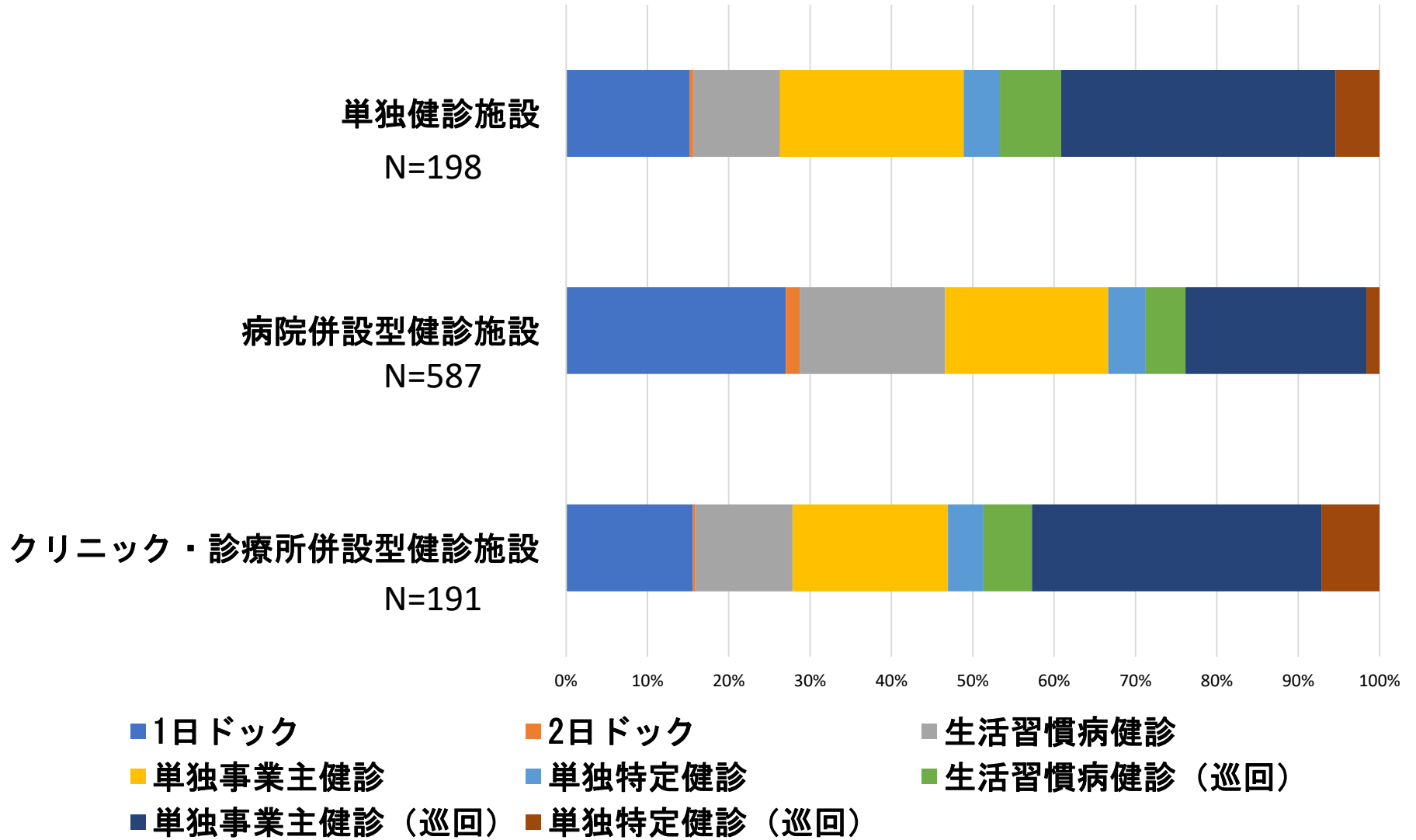
## 各施設での人間ドック以外の受診者数の分布



認定施設、非認定施設別に年間の人間ドック以外の健診（生活習慣病検診、単独事業主健診、単独特定健診）数をみています。

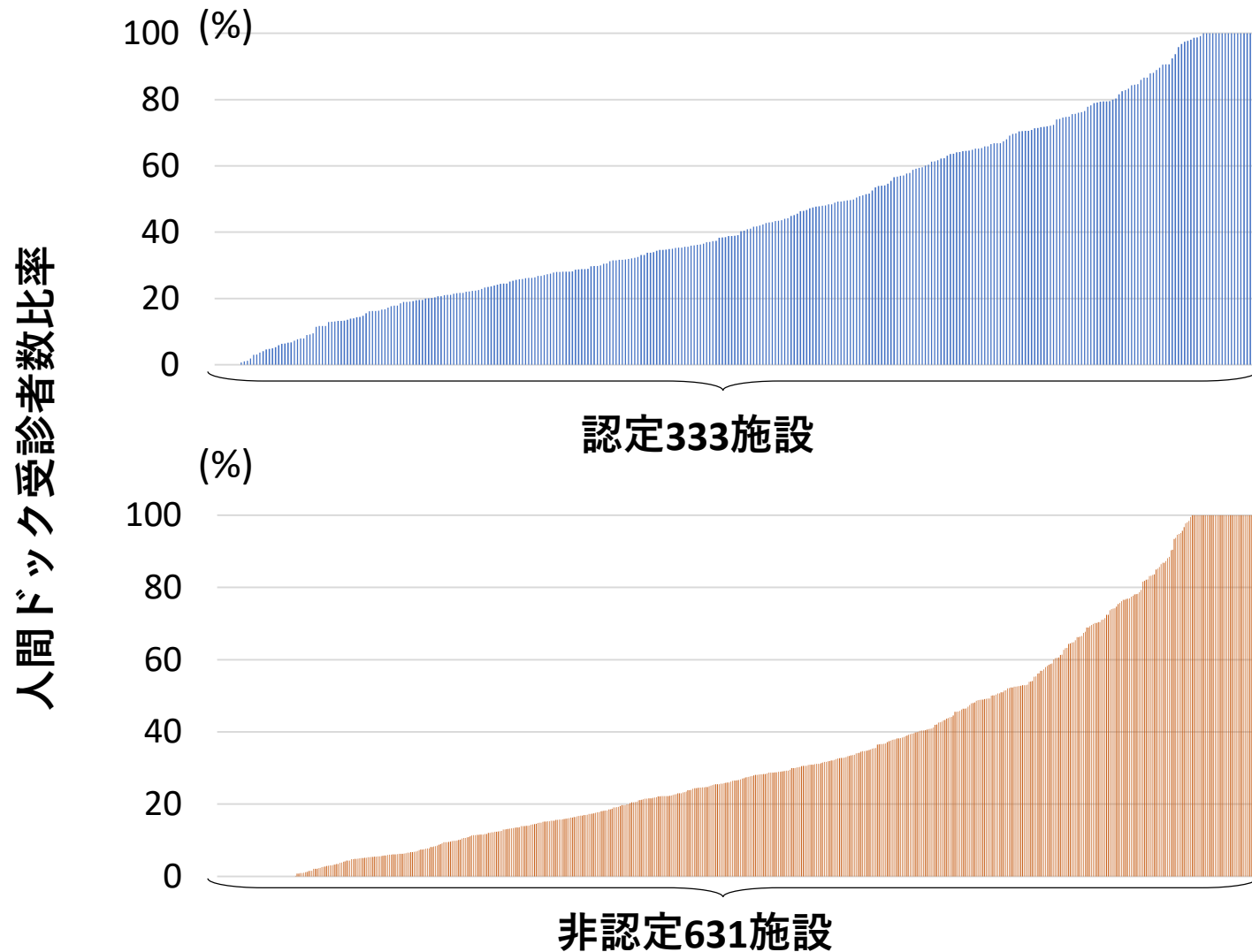


# 施設形態別による健診事業種別受診者数割合



健診事業を主とした施設あるいは病院に併設した健診施設、クリニック・診療所に併設した健診施設という施設の形態別にどのような健診事業種の受診者数割合なのかをみています。人間ドックの割合が多いのは病院併設型健診施設であることがわかります。

# 人間ドック/生活習慣病健診・単独事業主健診・単独特定健診 受診者数比率の分布

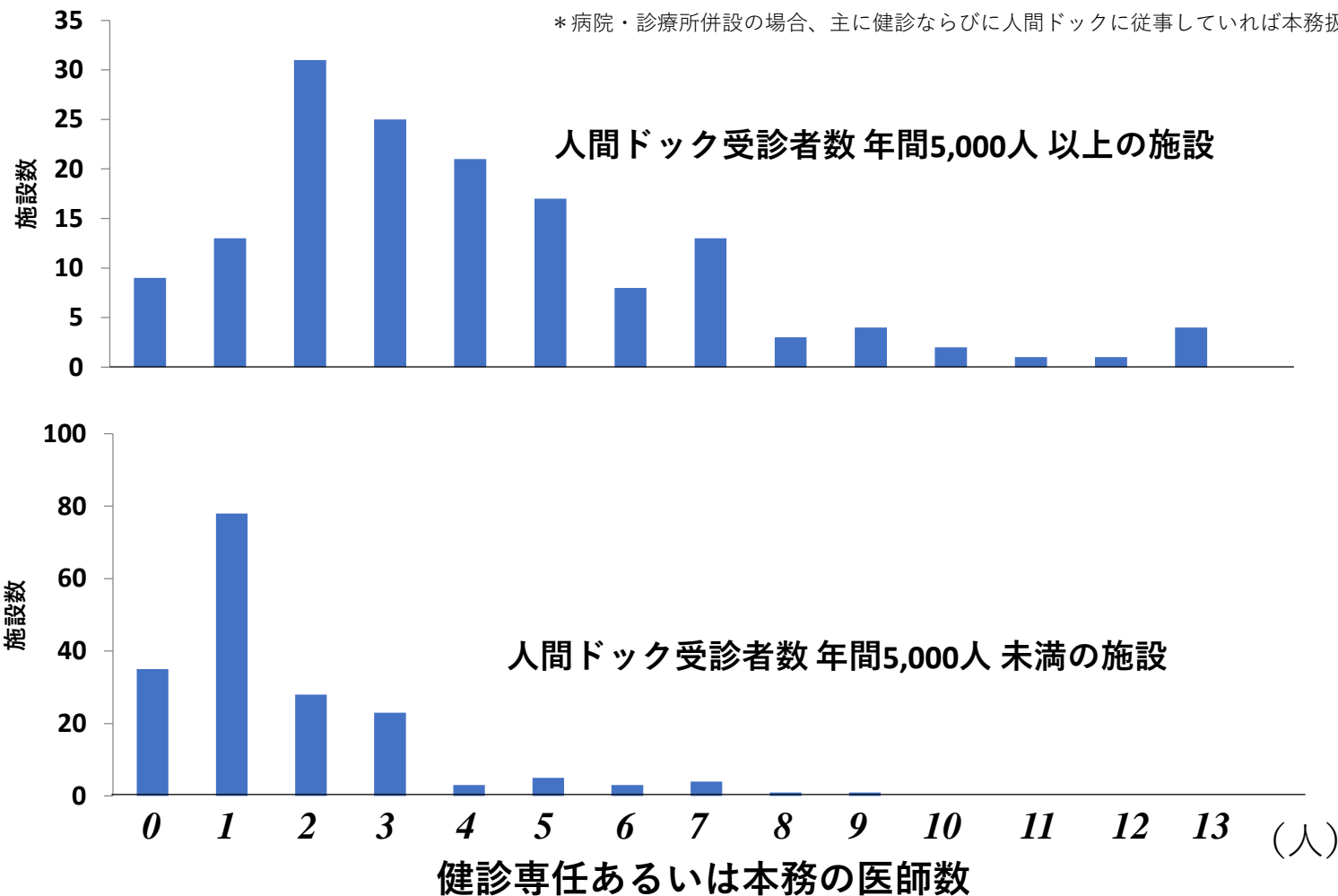


認定施設、非認定施設別の人間ドックと他の健診の比率を示しています。  
各施設によってその比率は様々ですが、人間ドックのみを行っている施設もあることがわかります。

# 人間ドック受診者数別 医師数の分布 (健診専任あるいは本務\*である医師)

認定施設

\*病院・診療所併設の場合、主に健診ならびに人間ドックに従事していれば本務扱いとする。

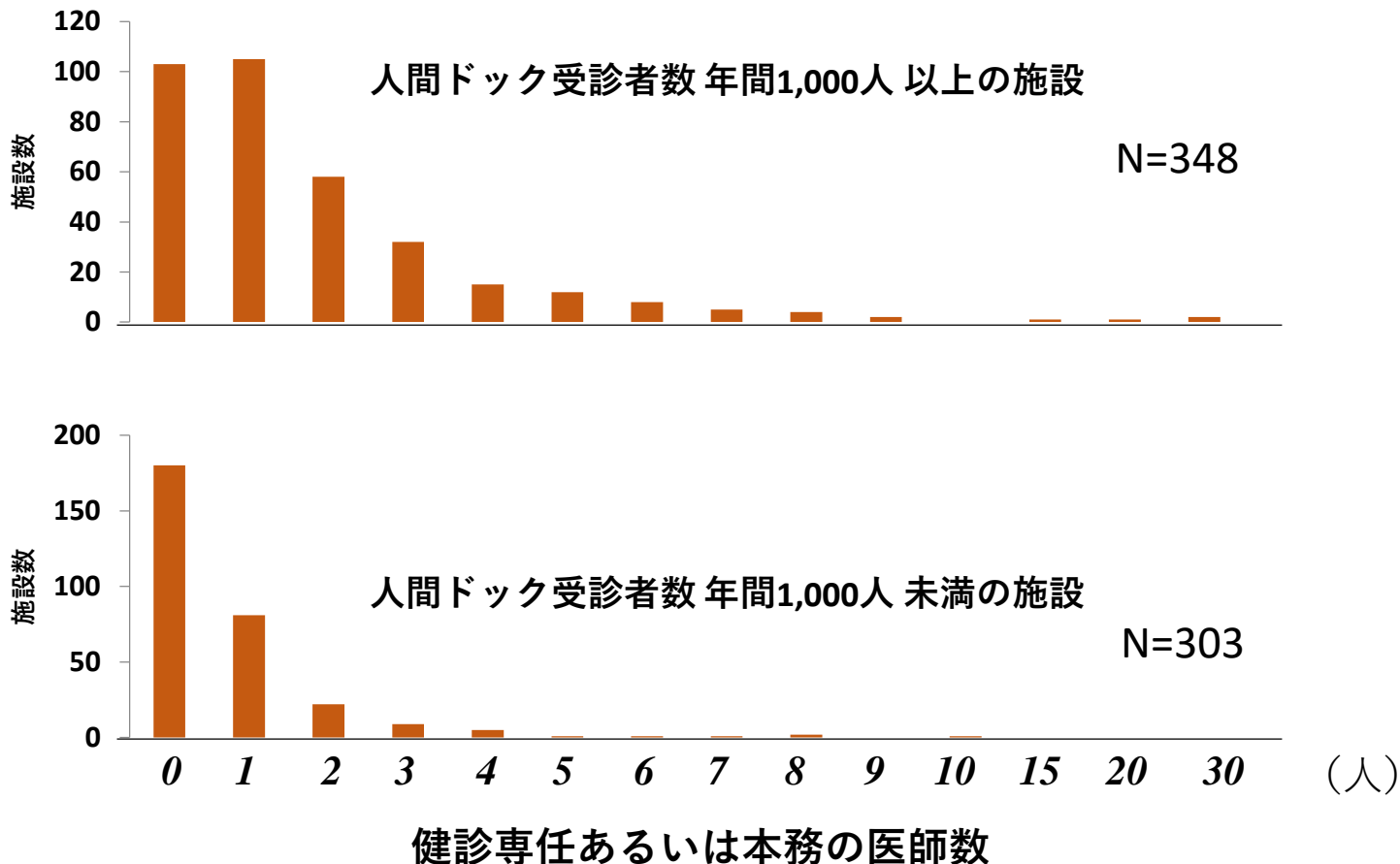


健診に携わる医師の中には、健診を専任としている方もいれば他の業務と併任している方もいます。また非常勤として健診を行っている医師もいます。その中で今回は、健診専任の医師数の分布をみています。認定施設では人間ドック受診者数年間5,000人以上と未満の施設に分けてみています。認定、非認定いずれにおいても人間ドック受診者数が多い方が専任医師数も多い傾向が示されました。

# 人間ドック受診者数別 医師数の分布 (健診専任あるいは本務\*である医師)

非認定施設

\* 病院・診療所併設の場合、主に健診ならびに人間ドックに従事していれば本務扱いとする。

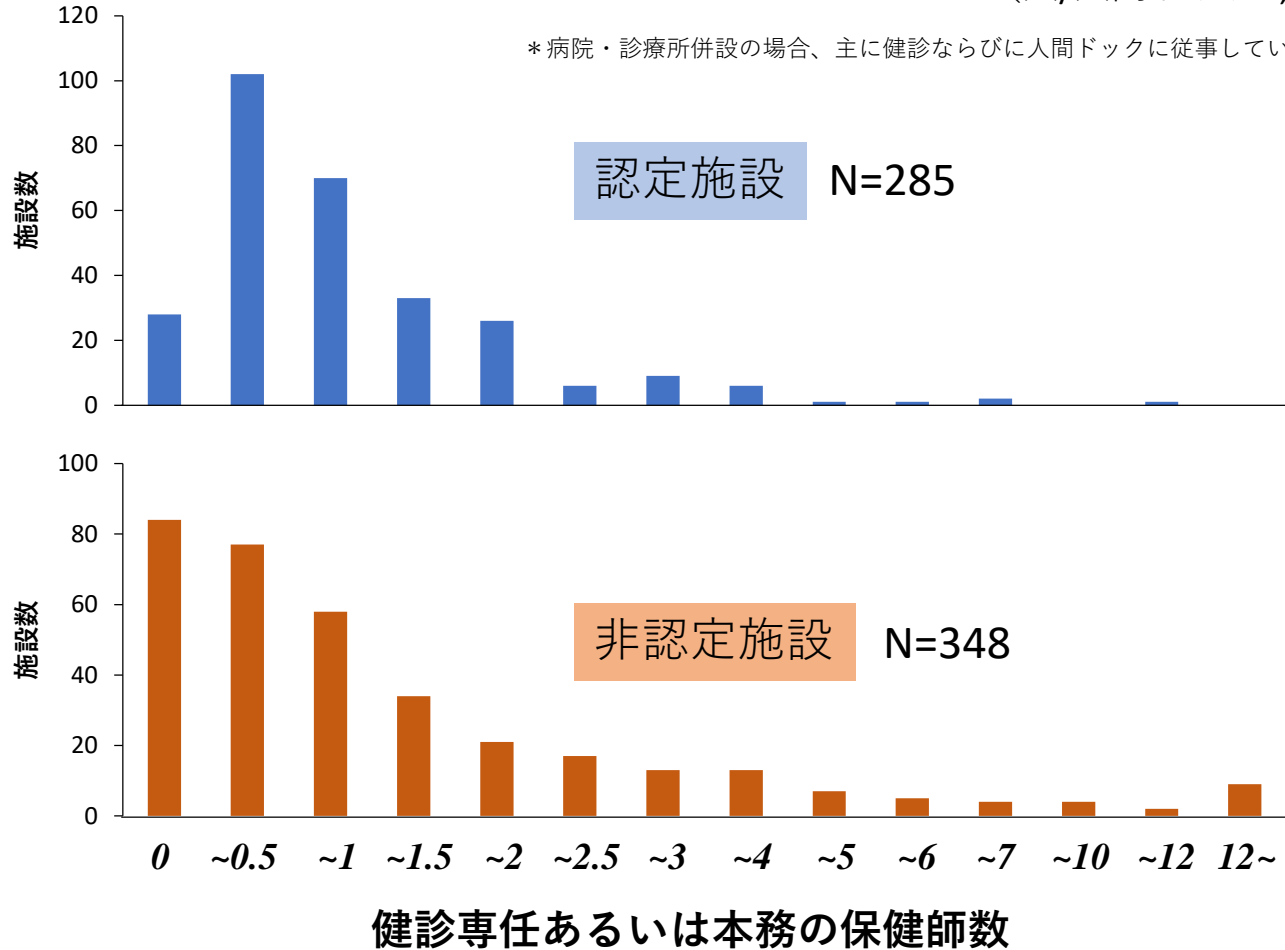


非認定施設では人間ドック受診者数年間1,000人以上と未満の施設に分けてみえています。  
認定、非認定いずれにおいても人間ドック受診者数が多い方が専任医師数も多い傾向が示されました。

# 人間ドック受診者1,000人あたりの保健師数の分布 (健診専任あるいは本務\*である保健師)

(人/人間ドック1,000受診者)

\*病院・診療所併設の場合、主に健診ならびに人間ドックに従事していれば本務扱いとする。

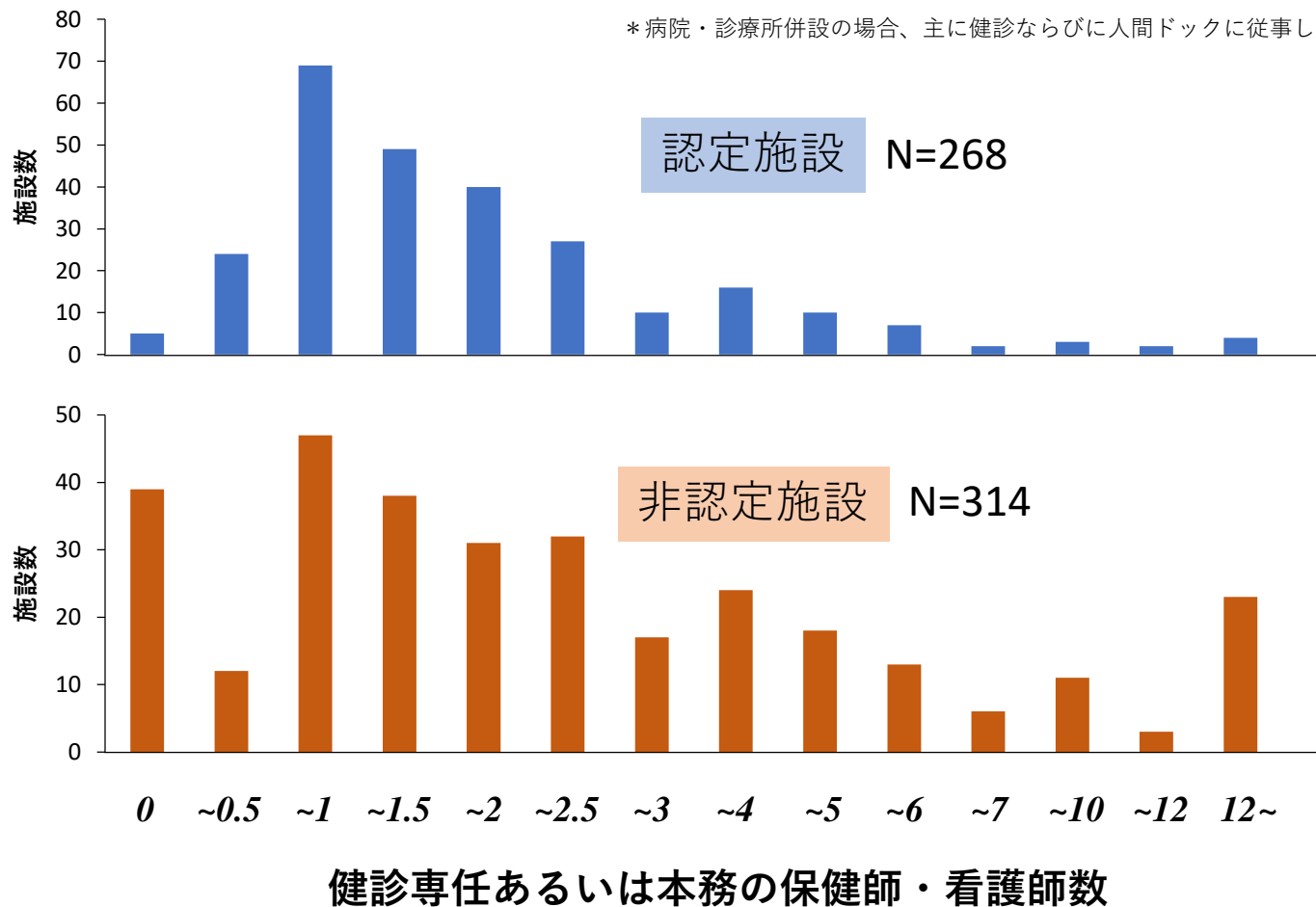


健診に携わる専任の保健師数を認定、非認定施設別に人間ドック受診者年間1,000人当たりとして示しています。

# 人間ドック受診者1,000人あたりの保健師・看護師数の分布 (健診専任あるいは本務\*である保健師)

(人/人間ドック1,000受診者)

\* 病院・診療所併設の場合、主に健診ならびに人間ドックに従事していれば本務扱いとする。

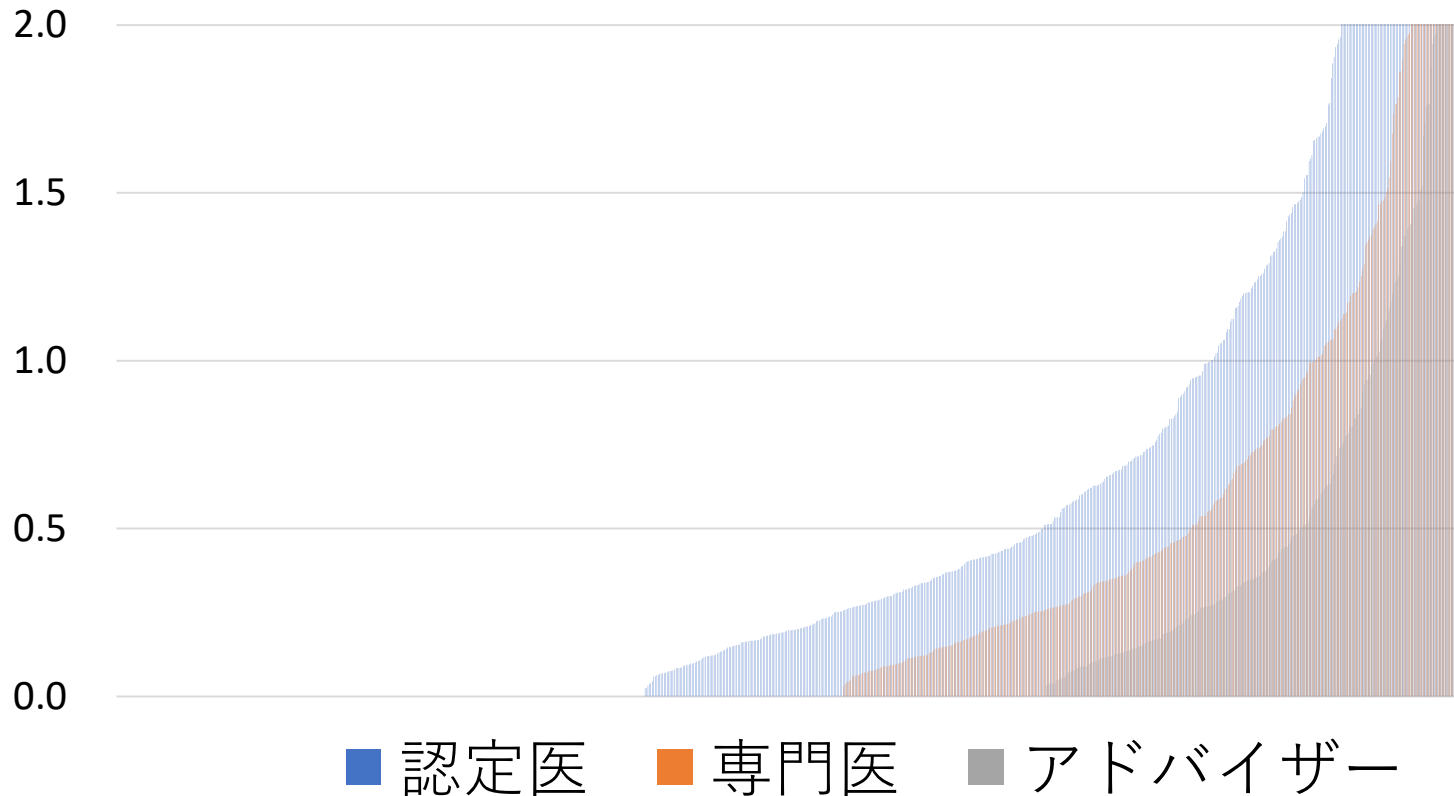


保健師だけでなく専任の看護師も含めた人間ドック受診者年間1,000人当たりの数を示しています。

# 認定医・専門医・医師アドバイザー数 (人間ドック年間1,000人あたり)

(人/人間ドック1,000受診者)

N=909

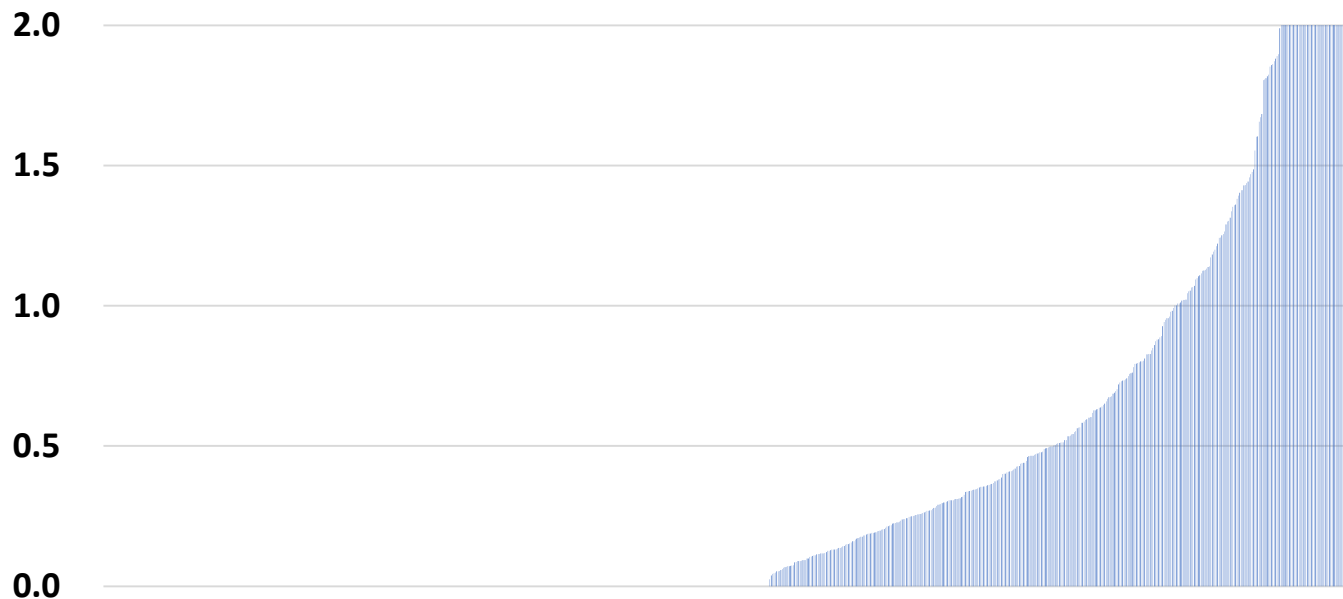


医師の中で、当学会による人間ドック認定医、当学会と日本総合健診医学会合同の人間ドック健診専門医、特定保健指導においてその知識・指導技術を修得した人間ドック健診情報管理指導士（人間ドックアドバイザー）の資格を有している者の割合を人間ドック受診者年間1,000人当たりとして示しています。

# 人間ドック情報管理指導士数（医師以外） （人間ドック年間1,000人あたり）

（人/人間ドック1,000受診者）

N=909



← 53.1% →

(46.9%)

← 42.7% →  
(アドバイザーいない)

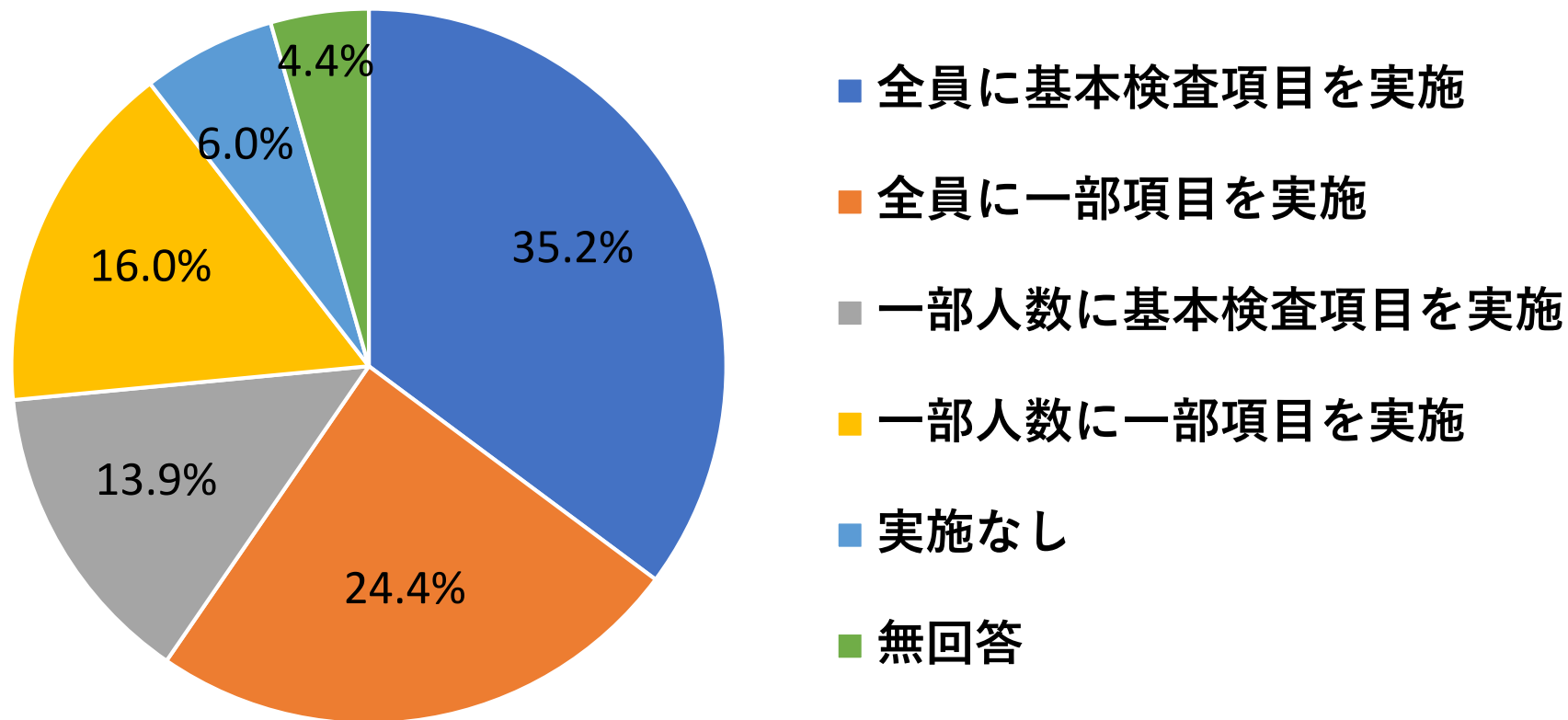
医師含めアドバイザーが1人でもいる  
(57.3%)

保健師・管理栄養士の中で、人間ドック健診情報管理指導士（人間ドックアドバイザー）の資格を有している者の割合を人間ドック受診者年間1,000人当たりとして示しています。

医師あるいは保健師・管理栄養士の人間ドック健診情報管理指導士の資格を一人でも有している施設は57.3%でありました。

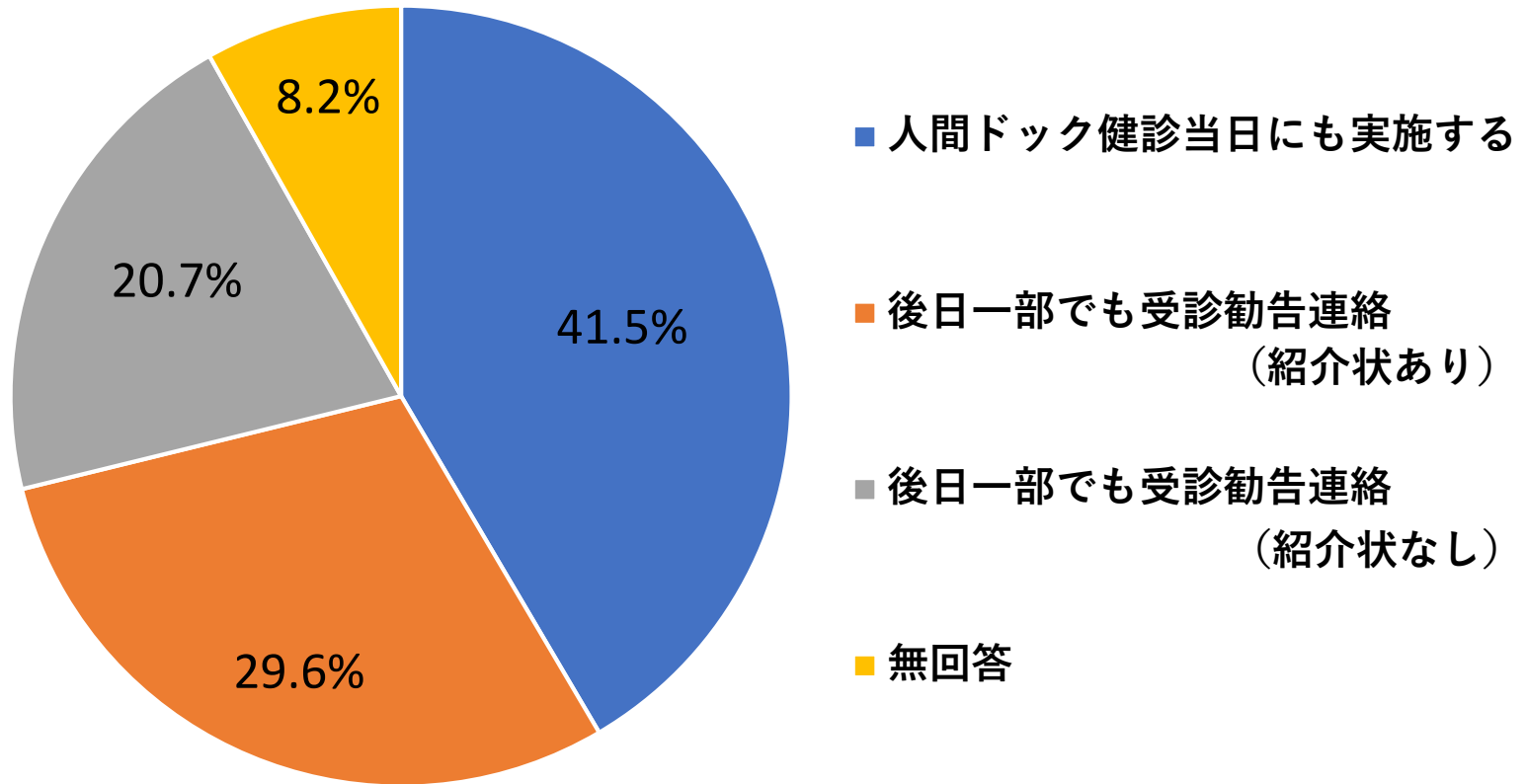


# 人間ドック健診の結果説明



人間ドックの結果を受診者に説明するにあたり、健診当日に基本項目について全員に行えるのが理想だと思われます。それが実施されているのは35.2%の施設でした。

# 受診勧奨をいつ行うか

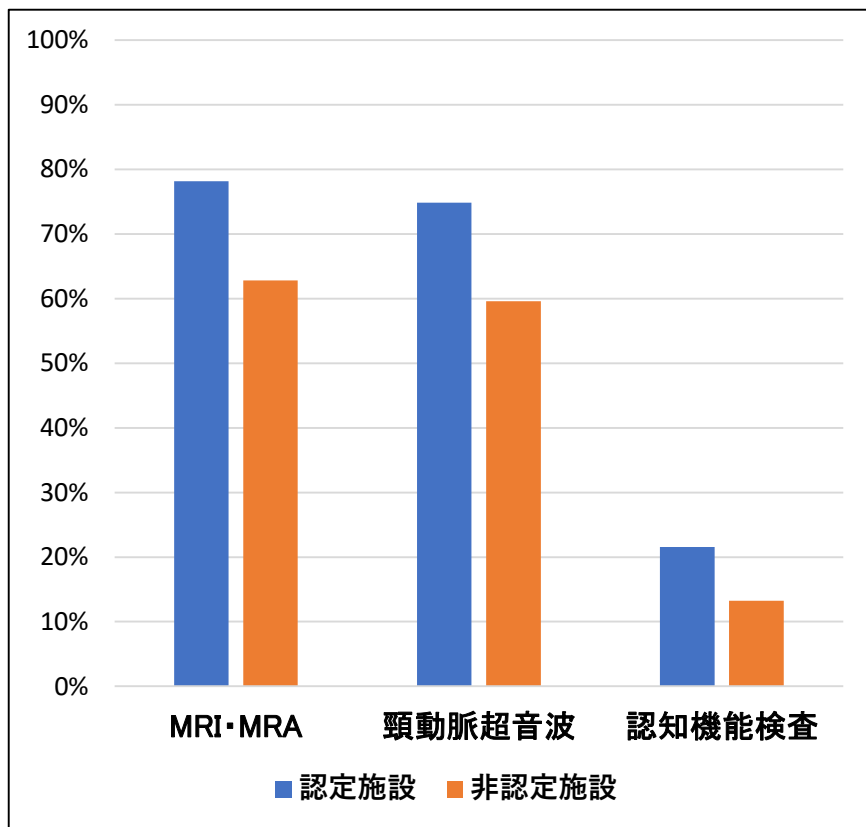


精密検査等の受診勧奨がどのようなタイミングで行われているかについて、健診当日に実施されているのは41.5%の施設でした。

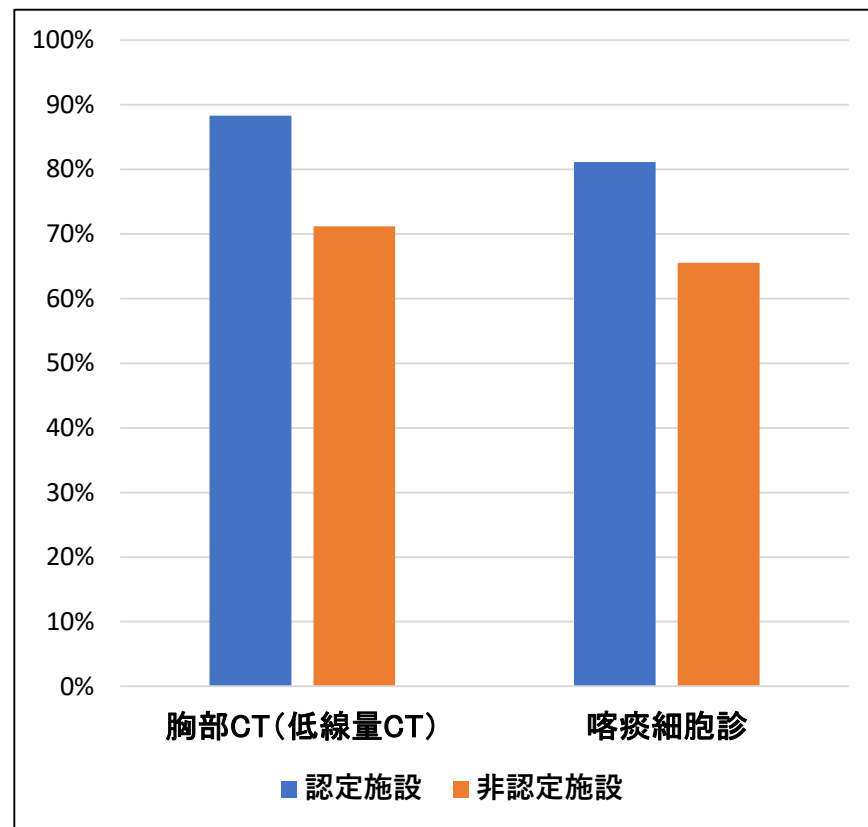
# オプション検査①

【オプションとして検査体制を設けている施設の割合】

## 脳



## 呼吸器



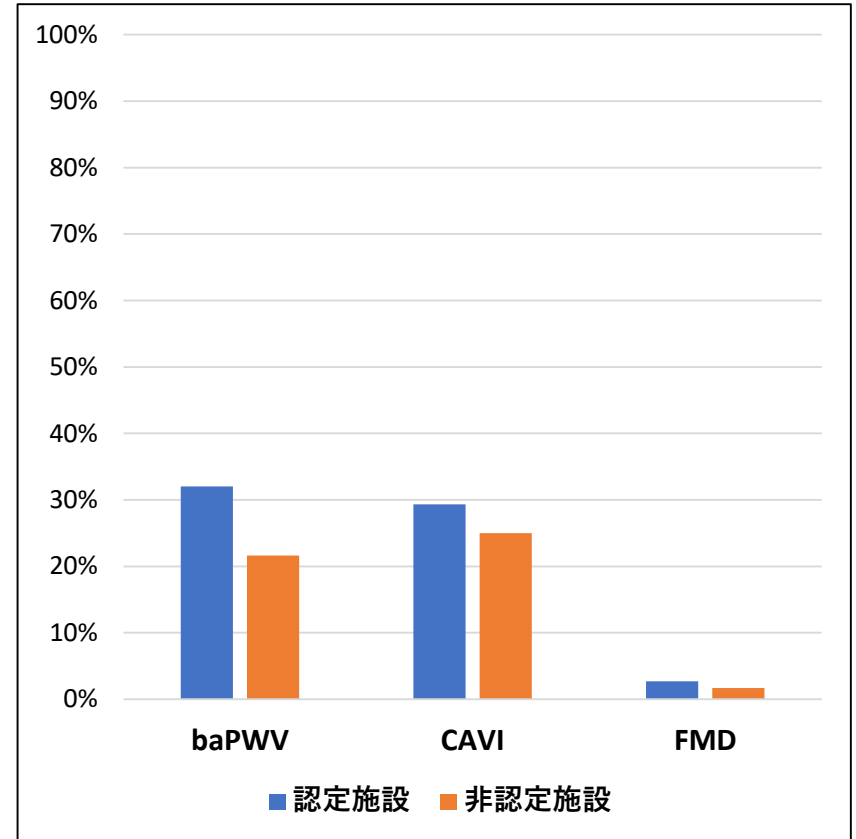
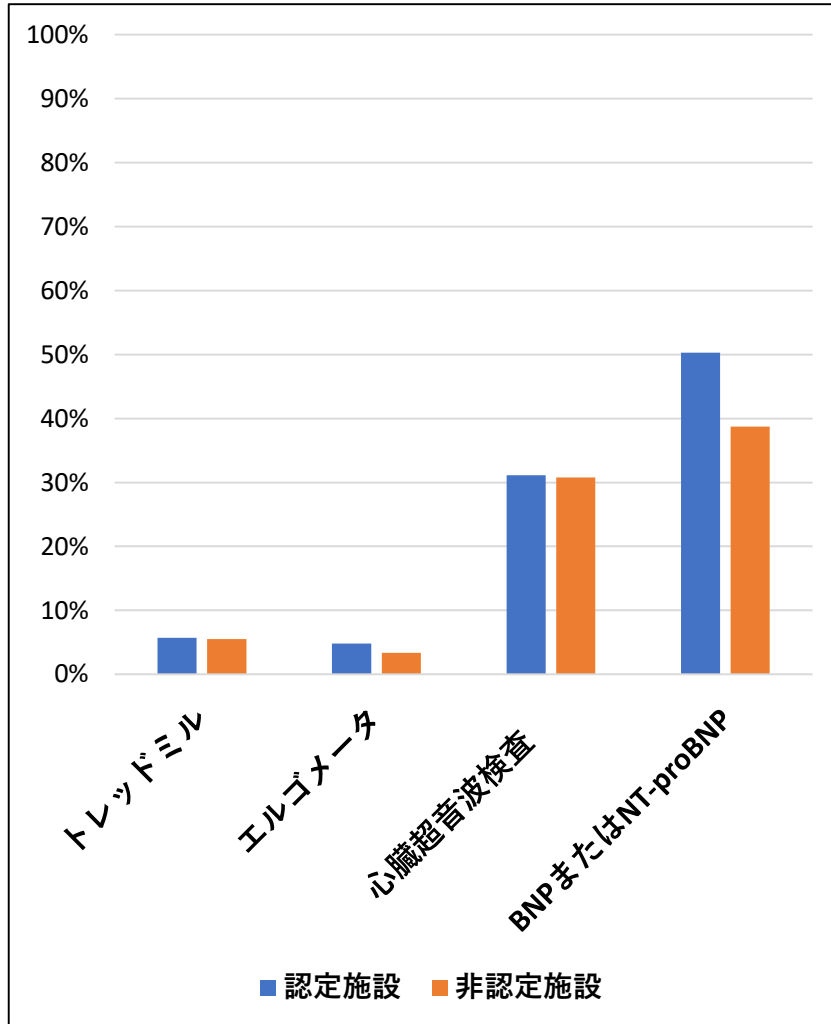
各種オプション検査を行っている施設の割合を認定、非認定施設別に示します。

# オプション検査②

【オプションとして検査体制を設けている施設の割合】

## 循環器

## 血管



baPWV: brachial-ankle Pukse Wave Velocity (上腕-足首間脈波伝播速度)

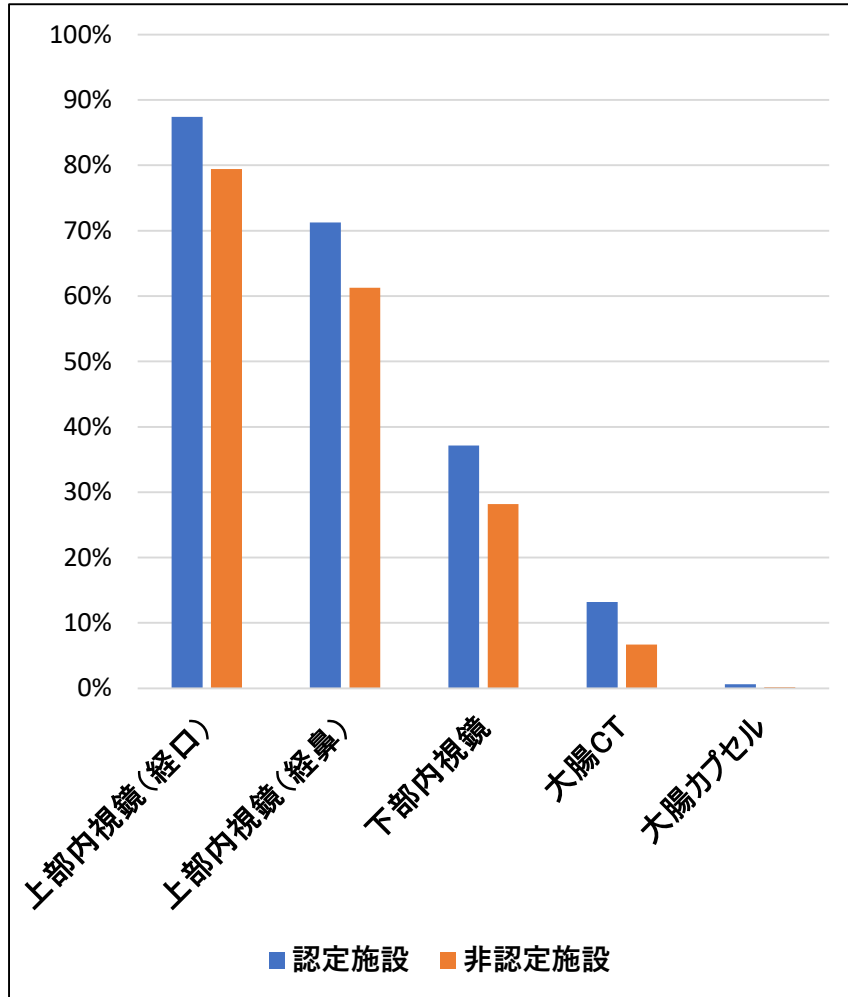
CAVI: Cardio Ankle Vascular Index (心臓足首血管指数)

FMD: Flow Mediated Dikation (血管内皮機能検査)

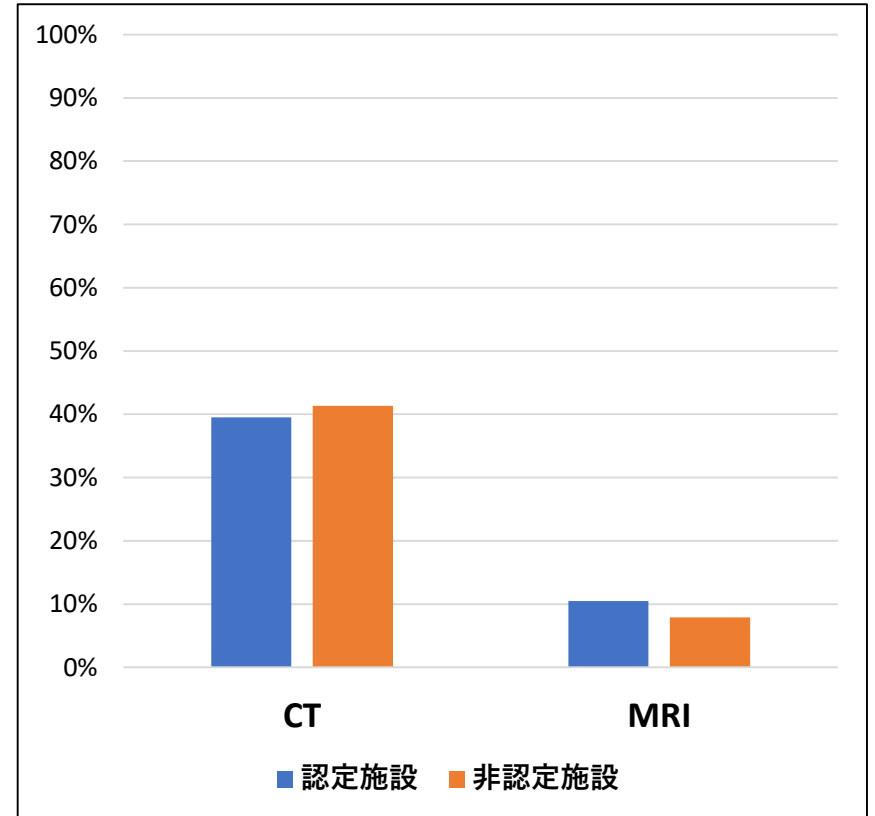
# オプション検査③

【オプションとして検査体制を設けている施設の割合】

## 消化管



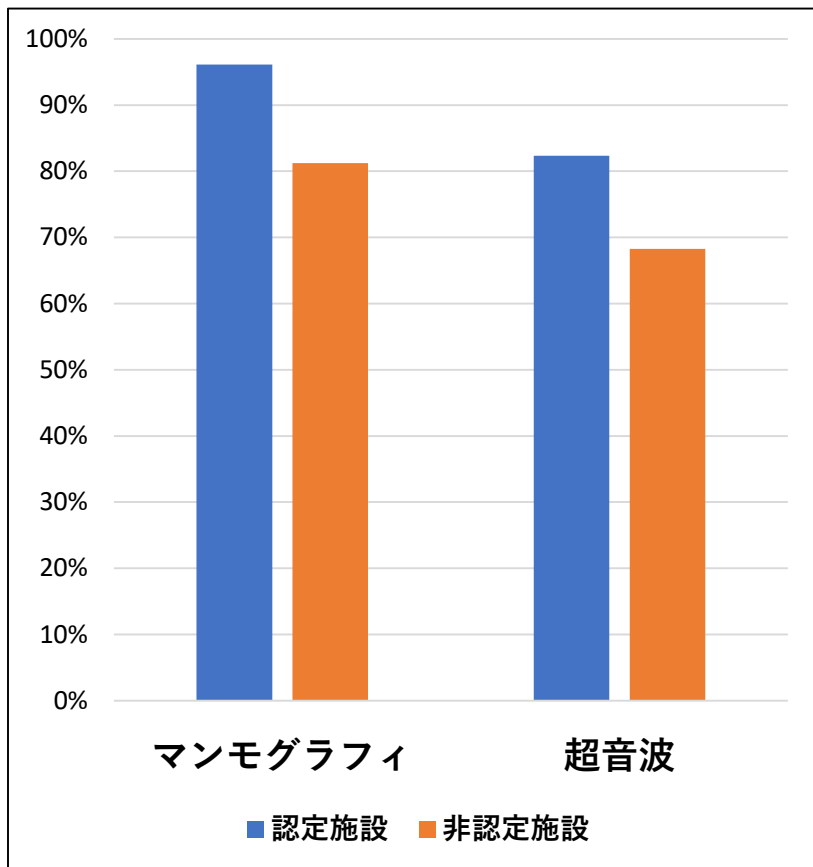
## 腹部



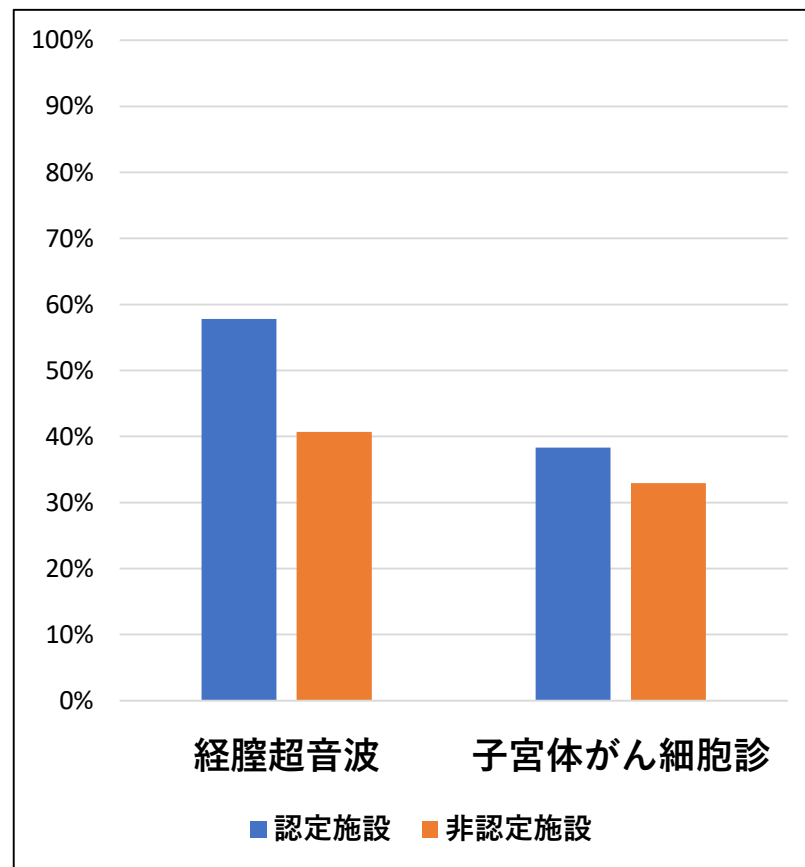
# オプション検査④

【オプションとして検査体制を設けている施設の割合】

## 乳腺



## 婦人科

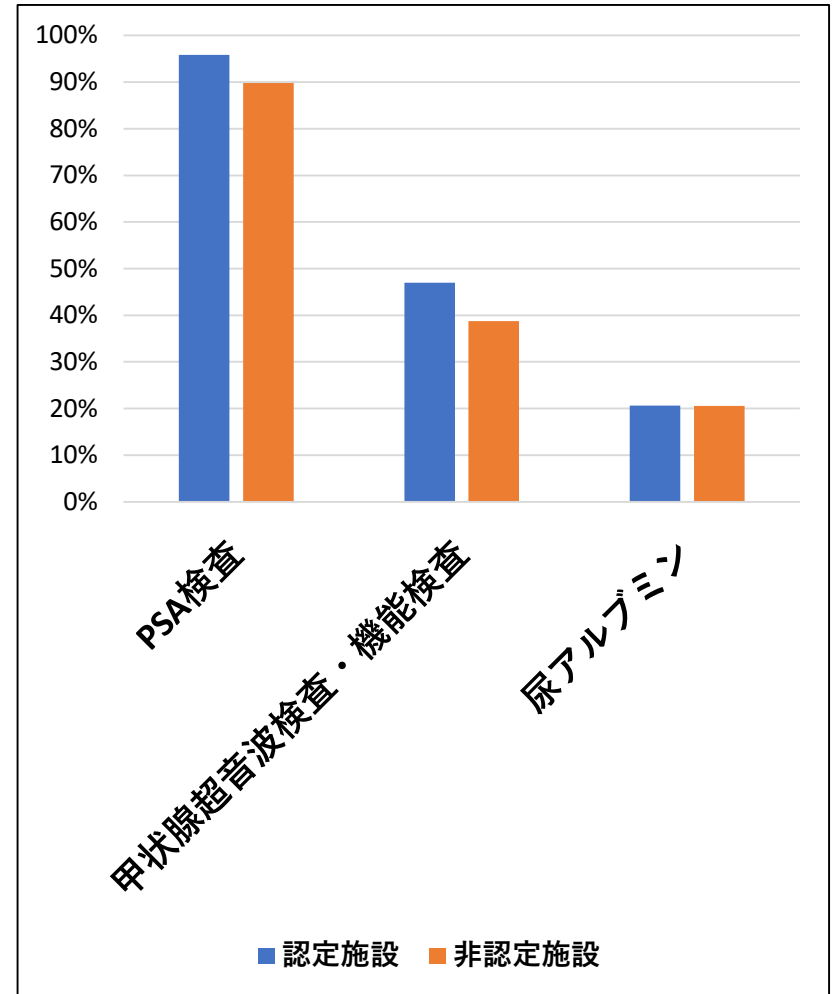
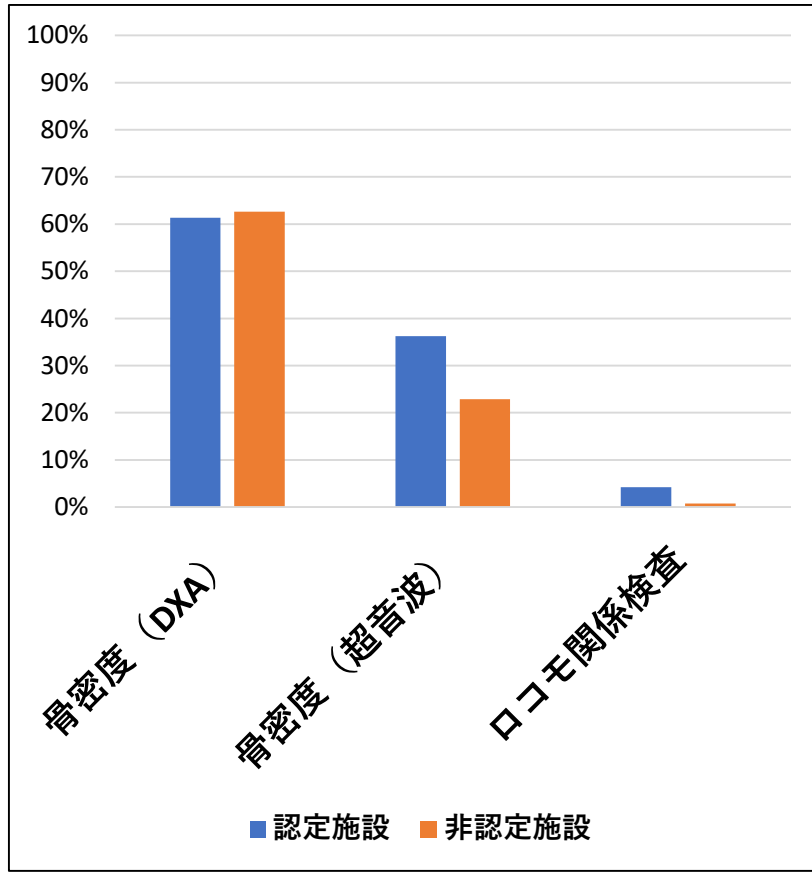


# オプション検査⑤

【オプションとして検査体制を設けている施設の割合】

## 骨・筋肉

## その他



## <まとめ>

特定健診・特定保健指導が開始となった**2008年**あたりから施設会員（C会員）数が顕著に増加し、現在も徐々に増えています。

今回の分析をみると各々の施設の規模・形態は多様であり、全健診受診者に占める人間ドック受診者の割合も様々でありました。また、人間ドック受診数あたりの医師・保健師・看護師数あるいは人間ドック認定医・人間ドック健診専門医・人間ドック健診情報管理指導士（人間ドックアドバイザー）の数も多様でした。

人間ドック受診の当日に結果説明を行う施設は約**60%**であり、当日受診勧奨を実施している施設は約**40%**でした。健診当日に基本項目の結果説明を行うことは、生活改善にとって有効であることが報告されています。また健診の有用性はその後の生活改善や精密検査に左右されることもあり、当日結果説明を目指していただきたいと考えます。

オプション検査は、多くの施設で行っているものもあれば、ごく少数の施設で先進的に行っているものもあるようです。

予防医療あるいは疾患の早期発見ということに対し人間ドックをはじめとした健診がどのように効果的な役割を果たしていくのか、学術的なデータを積み上げていくと同時に、各施設が何を標準とすべきなのかを考える上で今回の分析結果がその一助になれば嬉しく思います。

今後とも施設会員の皆様には本調査へのご協力をいただけますようよろしくお願いいたします。